

IV-23

北海道におけるオートリゾートの整備方向と課題

北海道大学工学部 正員 高野 伸栄

北海道大学工学部 正員 高橋 清

北海道大学工学部 正員 五十嵐日出夫

1. はじめに

昭和62年5月に制定された総合保養地域整備法（いわゆるリゾート法）は、リゾート開発のための基本的フレームワークを示すと同時に、各地域のリゾート構想の策定にいつそうの拍車をかけた。北海道においては、各方面からの批判はあるものの、地域活性化の主役として、他の都府県にも増して、大きな期待の下に、多くのリゾート開発計画がなされようとしている。

リゾート整備を必要とする背景としては、次のことがあげられている。

第一に近年における自由時間の増大、生活様式の多様化に伴う、自然とのふれあい、健康の維持・増進、創造的活動、地域や世代を越えた交流などの国民のニーズの高まり

第二に経済のサービス化の進展などによる産業構造の変化に伴う、第三次産業を中心とした新たな地域振興の施策の展開

第三に民間活力の活用による内需の拡大が国内的にも、又、国際協調に資する観点からも必要とされていること

しかしながら、我が国においては、「リゾート」が何たるのかが、まだ定まっていない部分が多く、ややもすれば、スキー場、ゴルフ場、ホテルの金太郎飴的三点セットが各地域に計画される事態になることもありうるのである。

本研究は、このような背景を踏まえ、「オートリゾート」に着目し、「オートリゾート」を「ホテルリゾート」と対比し、キャンプ場を手段として、周辺の自然、観光地、名産品等を楽しみながら長期にわたって車を中心とした日常とは異なる生活を実現するという意味でとらえ、北海道におけるオートリゾートの整備方向と課題についての分析を行うもの

である。

2. オートリゾートの意義

現在、「リゾート」という言葉は広く用いられているが、本研究においては、表1のように、「ホテルリゾート」と「オートリゾート」として区別して用いる。「ホテルリゾート」とは、ホテル、スキー場、ゴルフ場等の整備が主となるものであり、「オートリゾート」とは、オートキャンプ場で宿泊を行い、その周辺の自然、観光地、食事を楽しみながら長期にわたって車を中心とした周遊型のリゾート活動を行おうとするものである。「リゾート」とは、そもそもしばしば訪れることを意味することばであり、いわばその地で日常生活と異なる「生活」を実現することを意味している。ところが、「ホテルリゾート」においては、非日常的空間を楽しむことはできるものの、費用の点からいって、家族で長期に滞在し、「生活」を実現することは不可能と思われる。そこで、本研究においては、本来のリゾートを実現しうる有効な手段としての意味で「オートリゾート」を用いることとする。

表1 「ホテルリゾート」と「オートリゾート」

	意義	整備の方向	費用	滞在期間
ホテルリゾート	非日常的空間の体験	非日常空間の創出	高価でも可	短期の場合もあり
オートリゾート	日常と異なる生活の実現	車を中心とした生活基盤の整備	低廉	長期
オートキャンプ	キャンプの体験	キャンプ施設の整備	低廉	短期

北海道においては、各地域に特徴のある豊かな自然、観光資源、名産品があり、又、車を中心とした行動も首都圏ほどの渋滞等の支障が少なく、「オートリゾート」を実現しうる条件が整っているものと思われる。さらに、日常生活とは異なる「生活」を実現する諸環境を整えるという意味において、行政が積極的に関与し、整備を推進していくべきものであると思われる。

3. 調査の実施

オートリゾートにおける課題と整備の方向を探るため、次に示すアンケート調査を行った。アンケートの対象はファミリー層を中心とし、従来までの調査ではキャンプ経験者のみであったことに鑑み、キャンプ未経験者を含めて調査することとした。

- ①調査月日 平成2年9月22日～23日
- ②調査場所 滝野すずらん公園
- ③調査対象 同公園に來ている家族
- ④調査方法 ヒヤリング形式
- ⑤調査票数 回収票 178票
有効票 175票

4. 調査結果の概要

(1) 調査対象者の属性等

①年齢

父親、母親とも30代、40代が大部分となっている。

②祖父母の有無

7割強の人が、祖父母がなく核家族となっている。

③職業

会社員が約9割となっている。

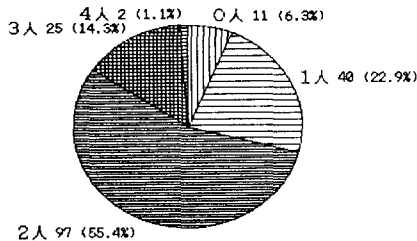


図1 対象者の子供の人数

④子の人数

5割強が2人、2割が1人及び3人の子がある。今回の調査対象はほとんど子がある家庭となっている。(図1)

⑤キャンプの経験、希望

キャンプ経験については、47%が経験あり、53%が経験なしである。経験のない家族のうち88%が何らかの制約条件が改善されれば、キャンプをしたいと回答している。(図2～図3)

⑥現状におけるキャンプの実態

○キャンプ回数は年1回の人が6割と多く、ついで2回が2割、3回以上が2割となっている。(図4)

○平均泊数は、1泊が多く、7割にのぼり、2泊以

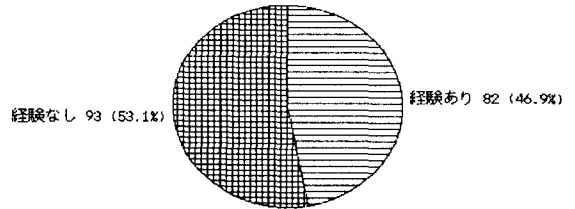


図2 家族キャンプの経験の有無

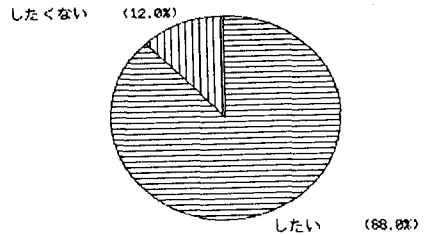


図3 今後の家族キャンプの希望

上は3割である。(図5)

○キャンプの時期は7、8月の夏期が圧倒的に多く、夏以外にキャンプを行うと答えた人は1割であった。(図6)

○キャンプの交通手段としては、乗用車が多く、JR・バスを利用しているものはいなかった。(図7)

○1ボックスカーの利用については、3割の人が買うときに、キャンプを意識したとしており、その多くは移動のみで、中で寝ることはあまり多くないようである。(図8)

○ホテル、民宿などの他の宿泊施設の利用について

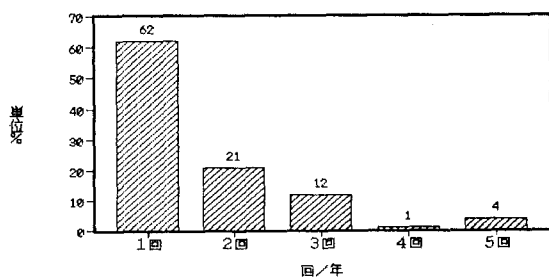


図4 キャンプ回数

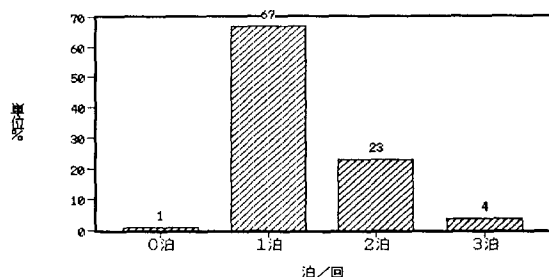


図5 平均泊数

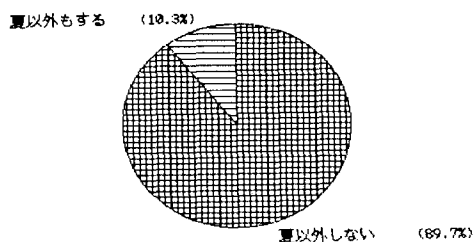


図6 キャンプの実施時期

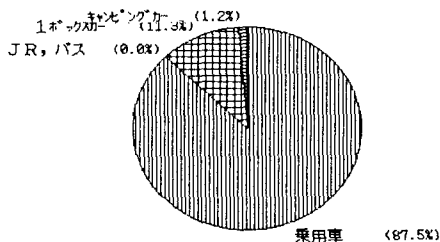


図7 キャンプの交通手段

は、7割が利用すると答えており、その場合キャンプを選ぶ理由としては5割が場所・目的、2割が費用、メンバーとなっている。(図9)

(2) キャンプ提案者

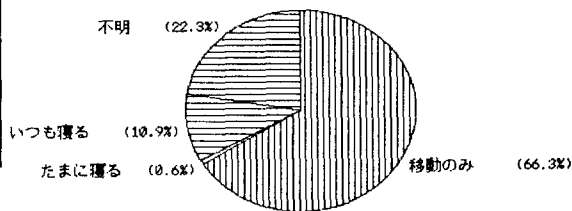


図8 1ボックスカーの利用状況

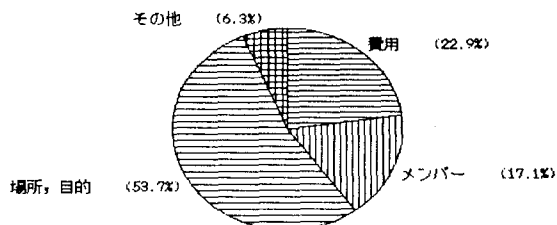


図9 キャンプ選択要因

キャンプをやろうという提案者(何らかの制約があり、キャンプを実際に実行していない家庭をも含めて)は誰かという問に対しては、キャンプ経験家庭では44%が父、12%が母であり、キャンプ未経験家庭では29%が父、20%が母となっており、

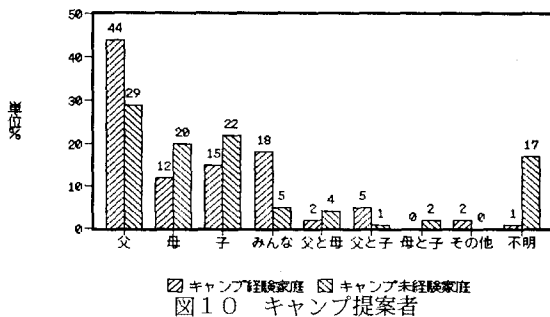


図10 キャンプ提案者

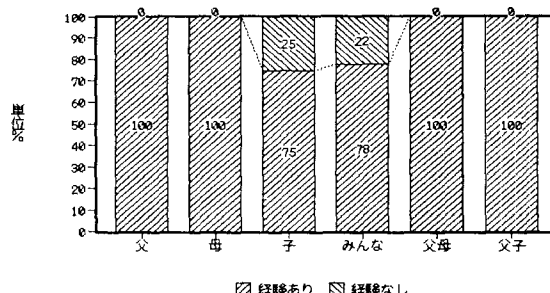


図11 提案者の経験の有無(経験家庭)

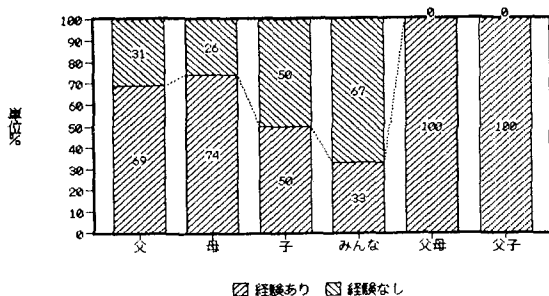


図 12 提案者の経験の有無（未経験家庭）

キャンプの実行については、やや父親主導となっていることがわかる。（図 10）

提案者のキャンプ経験については、経験家庭では父、母の提案者はすべて以前に経験があるのに対して、未経験家庭では、父 31%、母 26%がキャンプ未経験の人が提案を行い、結果的に何らかの制約により実行できなかったということになる。（図 11～図 12）

（3）キャンプの問題点のうち家族要因に係わる意識

家族要因として、以下に示す要因について、経験家庭と未経験家庭の意識の差を考察した。その結果、キャンプ未経験家庭では経験家庭に比べ、知識・用

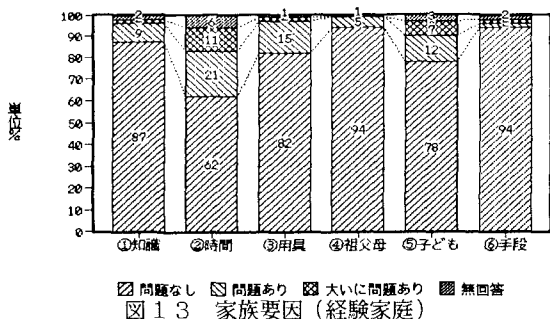


図 13 家族要因（経験家庭）

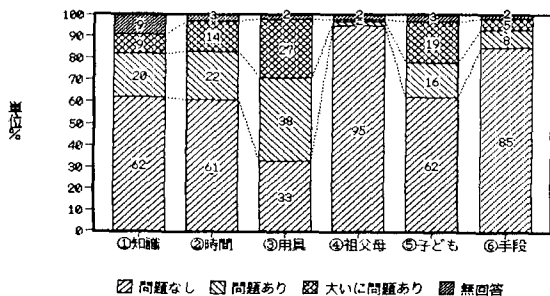


図 14 家族要因（未経験家庭）

具に対する意識、子供が小さいことについて特に問題意識を持っていることが読み取れる。（図 13～図 14）

家族要因

- ①キャンプに関する知識のある人がいない。
- ②みんなの時間があわない。
- ③用具が不十分だ。
- ④祖父母がいる。
- ⑤子供が小さい。
- ⑥移動手段がない。

（4）キャンプの問題点のうち父、母、子の各構成員の要因に係わる意識

各構成員に係わる要因として、以下に示す要因について、経験家庭と未経験家庭の意識の差を考察した。その結果、キャンプ未経験者の父親は特に、⑮キャンプ場にどんな施設があるのかわからない、という点に問題意識を持っている。キャンプ未経験家庭の母親は、⑭⑮キャンプ場がどこに、どんな施設があるのかわからない、⑪蚊など虫がいる。⑫費用、という点に問題意識を持っている。なお、子供については、経験、未経験家庭の間に顕著な特徴はみられなかった。

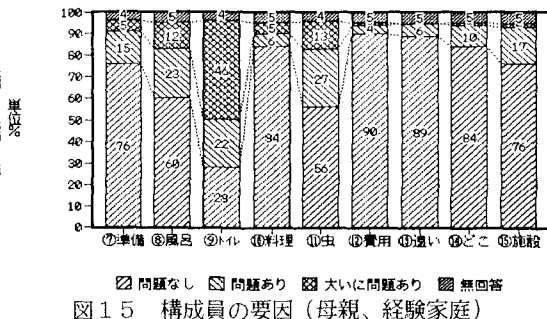


図 15 構成員の要因（母親、経験家庭）

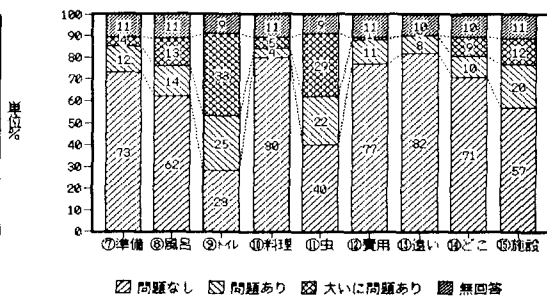


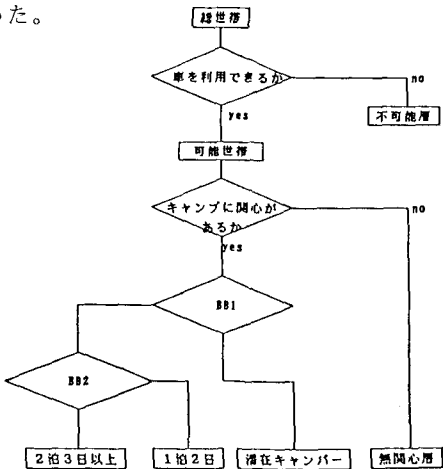
図 16 構成員の要因（母親、未経験家庭）

各構成員に係わる要因

- ⑦準備・片付けに手間取る。
- ⑧風呂・シャワーがない。
- ⑨トイレが汚い。
- ⑩料理をするのが面倒だ。
- ⑪蚊など虫がいる。
- ⑫費用
- ⑬キャンプ場が遠い。
- ⑭どこにキャンプ場があるのか知らない。
- ⑮キャンプ場にどんな施設があるのか知らない。

5. 数量化2類による分析

下記のフローに従い、BB1（潜在キャンパーと顕在キャンパーを分ける条件；キャンプをしたいと思っているが実行できない家庭と現に実行している家庭の条件）、BB2（長期滞在が可能な条件）のメカニズムを考察するため、数量化2類を用いて分析を行った。



※ BB1. 潜在キャンパーと顕在キャンパーを分ける条件
※ BB2. 長期滞在（2泊3日以上）可能な条件
図 17 数量化2類による分析フロー

BB1について分析を行うと、家族の属性で6才未満の子がいるかいないかで必要な条件が違ってくる。6才未満の子がある家庭でキャンプを実施している家庭は45家庭中16家庭（36%）、6才未満の子がない家庭で実施した家庭は44家庭中35家庭（80%）と大きな差があった。そこで、6才未満の子がある家庭とない家庭に分けた上でそれぞれ外的基準を「キャンプにいった」、「キャン

プにいったことがない」として、数量化2類を適用したものが表2、表3である。

その結果を要約すると、
○6才未満の子がある家庭

虫が気になるかどうか等の他の要因も関係があるが、提案者の経験がもっとも重要な要因である。

表2 分析結果（6才未満の子がある場合）

変因	カテゴリ	度数	スコア	レンジ	重相関
提案者の経験	豊富	25	-0.663		
	ある程度	13	0.662	2.652	0.72
キャンプに関する知識のある人がいない	なし	7	1.959		
	問題有り	32	-0.958		
みんなの時間があわない	大いに問題	10	0.175	0.571	0.181
	問題無し	3	0.472		
用具が不十分だ	問題無し	32	-0.186		
	問題有り	8	-0.213	1.455	0.478
親友母がいる	大いに問題	22	-0.067		
	問題無し	12	-0.108	1.241	0.528
子供が小さい	大いに問題	11	-0.801		
	問題有り	14	-0.067	2.994	0.478
移動手段がない	大いに問題	1	2.928		
	問題無し	0	-0.067		
依頼・かたづけに手間どる、荷物が多い	大いに問題	20	-0.457		
	問題有り	12	0.28	0.9	0.453
風呂・シャワーがない	大いに問題	13	0.444		
	問題無し	40	0.033		
トイレが汚い	大いに問題	3	-0.209	0.371	0.125
	問題有り	2	-0.336		
料理をするのがめんどうだ	大いに問題	27	-0.076		
	問題無し	14	0.478	1.035	0.483
費用	大いに問題	4	-1.167		
	問題無し	32	0.002		
キャンプ場が遠い	大いに問題	8	-0.705	1.274	0.325
	問題有り	7	0.588		
どこにキャンプ場があるのか知らない	大いに問題	9	0.784		
	問題有り	20	-0.703	1.487	0.614
キャンプ場にどんな施設があるのか知らない	大いに問題	26	-0.305		
	問題無し	40	0.33	3.601	0.603
費用	大いに問題	3	-2.219		
	問題有り	2	-2.271		
キャンプ場が遠い	大いに問題	17	-2.768	1.484	0.598
	問題有り	14	0.189		
どこにキャンプ場があるのか知らない	大いに問題	14	0.729		
	問題無し	40	-0.263	3.247	0.591
キャンプ場にどんな施設があるのか知らない	大いに問題	4	1.682		
	問題有り	1	3.011		
費用	大いに問題	34	-0.009	0.893	0.302
	問題有り	7	0.354		
キャンプ場が遠い	大いに問題	4	-0.339		
	問題有り	34	0.187	1.901	0.32
どこにキャンプ場があるのか知らない	大いに問題	8	-0.814		
	問題有り	5	-0.292		
費用	大いに問題	28	-0.239		
	問題有り	17	0.281	0.957	0.323
費用	大いに問題	2	0.718		
	問題有り	16	-1.143		
費用	大いに問題	29	0.83		
	問題有り	2	-0.83		

○6才未満の子がない家庭

提案者の経験よりも用具が十分かどうか、キャンプ場の情報があるかどうか重要な要因となっている。

というように明確に異なっている。

次にBB2については、6才未満の子がある家庭については、16家庭中3家庭（19%）しか2泊3日以上以上のキャンプをしていないので詳細な分析を行うことはできなかったが、6才未満の子がある家庭では2泊3日以上以上のキャンプはかなり難しいのではないと思われる。一方、6才未満の子がない家庭では35家庭中13家庭（37%）が実施しており、その要因としては、

○施設に対する問題意識、料理が面倒かどうか

重要な要因となっている。

表3 分析結果（6才未満の子がいない場合）

要因	カテゴリ	サンプル数	44	相対比	0.953	スコア	レンジ	順位
提案者の経験度	豊富	28	-0.09					
	ある程度	10	-0.157			0.837	0.705	
キャンプに関する知識のある人がいない	なし	8	0.050					
	問題有り	36	0.019					
みんなの時間があわない	大いに問題	5	-0.495			2.245	0.681	
	問題無し	31	1.757					
用具が不十分だ	大いに問題	25	-0.092					
	問題無し	12	-0.486			0.993	0.74	
近親者がいる	大いに問題	7	-0.507					
	問題無し	37	-0.394					
子供が小さい	問題有り	10	0.415			3.083	0.938	
	大いに問題	3	2.659					
移動手段がない	問題無し	41	0.009					
	問題有り	3	-0.127			0.136	0.141	
準備・かたづけに手間どる、荷物が多い	大いに問題	0	0.009					
	問題無し	42	0.035					
風呂・シャワーがない	問題有り	1	-1.137			1.172	0.582	
	大いに問題	1	-0.339					
トイレが汚い	問題無し	39	0.055					
	問題有り	2	0.44			2.295	0.788	
キャンプ場が遠い	大いに問題	3	-1.858					
	問題無し	35	-0.003					
どこにキャンプ場があるのか知らない	問題有り	8	-0.155			0.602	0.349	
	大いに問題	3	0.015					
キャンプ場に通い	問題無し	25	-0.198			0.418	0.455	
	問題有り	11	0.222					
キャンプ場に通い	大いに問題	8	-0.157					
	問題無し	10	-0.539			0.725	0.701	
キャンプ場に通い	大いに問題	28	0.15					
	問題無し	39	0.017					
キャンプ場に通い	問題有り	3	-0.558			1.065	0.549	
	大いに問題	2	0.508					
キャンプ場に通い	問題無し	14	-0.157					
	問題有り	15	0.481			0.815	0.735	
キャンプ場に通い	大いに問題	15	-0.379					
	問題無し	4	0.015					
キャンプ場に通い	問題有り	2	-0.205			0.219	0.187	
	大いに問題	1	-0.189					
キャンプ場に通い	問題無し	35	0.007					
	問題有り	7	0.08			0.489	0.334	
キャンプ場に通い	大いに問題	2	-0.409					
	問題無し	31	0.018					
キャンプ場に通い	大いに問題	10	0.25			1.288	0.545	
	問題無し	3	-0.182					
キャンプ場に通い	問題有り	21	-0.004					
	大いに問題	18	-0.047			2.139	0.823	
キャンプ場に通い	問題無し	5	1.87					
	大いに問題	35	-0.495					
キャンプ場に通い	問題有り	9	1.828					
	大いに問題							

6. 分析結果の考察

以上、これまでの分析結果により得た知見をまとめると次のようになる。

- ① 今回の調査では約半数の家庭が既にキャンプを実施しており、又キャンプをまだ実施していない家庭でもその多くは何らかの条件が改善されれば、是非キャンプを実施したいといっている。
- ② 現在のキャンプは、夏1度の1泊型が主流であり、長期滞在型のオートリゾートが広く利用されるまでにはその概念の普及、ある程度の時間、さらに積極的条件整備が必要なものと思われる。
- ③ キャンプへの交通手段はそのほとんどが車利用であり、車を利用したキャンプをオートキャンプと広く解釈すると道内においては、現況においても広く行われている。
- ④ ホテル・民宿・旅館とキャンプの使い分けは主にその目的によって行われている。キャンプを手段とし、日常生活とは異なる生活を実現するというオートリゾートが成立するためには、キャンプが目的から手段として活用されるよう役割の変化・意識の改

革が必要である。

⑤ キャンプが実際に行われるためには、その提案者の経験が大きな意味をもつ。そのため、学校時代多くの人にキャンプの体験をもってもらい、良いイメージ、正しい知識を持たせる等のリーダーの養成を行っていく必要があると思われる。

⑥ キャンプを実際に行える条件としては、小さな子供がいるかどうか大きな影響を持っている。今後、オートリゾートのターゲット等を定める場合にはこのことを良く考慮して行う必要がある。

⑦ 長期滞在型のオートリゾートが実現するためには、キャンプ提案者の経験・知識、用具の普及といったことを前提として、さらにキャンプ地における生活基盤の諸条件を整える必要がある。このためには、その周辺で何を買えるのか、何を用意する必要があるのか、どのような施設（病院等の生活関連施設を含めて）があるのか、どのような自然・観光資源があるのか、といったことに対するきめ細かな情報の提供、及びその地域でとれる名産品を容易に手に入れることができるような売店や風呂・洗濯等の生活関連施設整備が必要になる。

7. おわりに

本研究は、オートリゾートを車を中心とした日常生活とは異なる生活の実現ととらえ、北海道におけるその位置付けを行った上で、調査を行い、それが可能となるための整備の方向の検討を行った。その結果オートリゾート整備を行う上でのその方向性、課題についていくつかの知見をうることができた。しかしながら、本研究においては、調査対象が限定的であること等今後さらに研究を進めていく必要があると思われる。

また、本研究においてはあまり検討できなかったが、オートリゾートを実現するためには、キャンプ場を結ぶ道路等のインフラ施設の整備が必要となる。今後、この点についてもオートリゾート整備という新たな視点から研究していく必要があると思われる。

なお、本研究を進めるに当たり、北海道開発局高橋尚人氏には、データ収集から分析に至るまで多大な協力をいただいた。さらに、本研究は、北海道科学研究費（個人研究）の助成を受けて行われたものである。ここに、記し感謝の意を表わします。